

経営比較分析表（令和4年度決算）

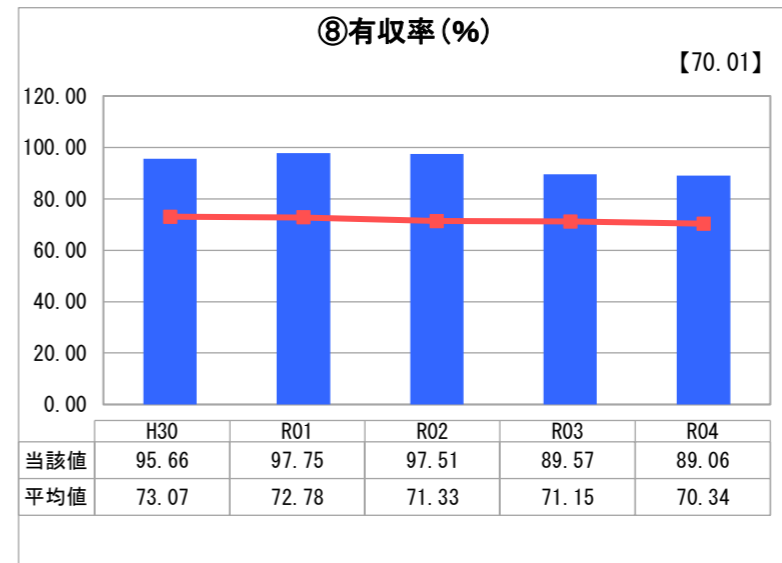
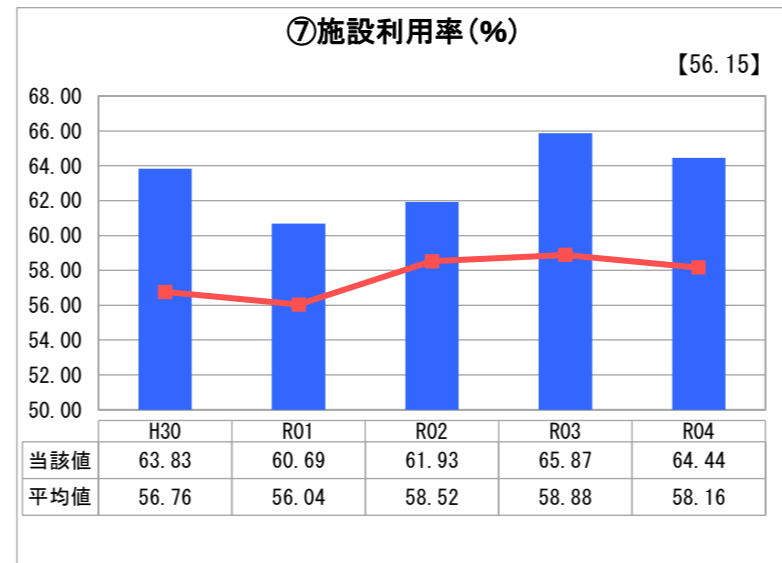
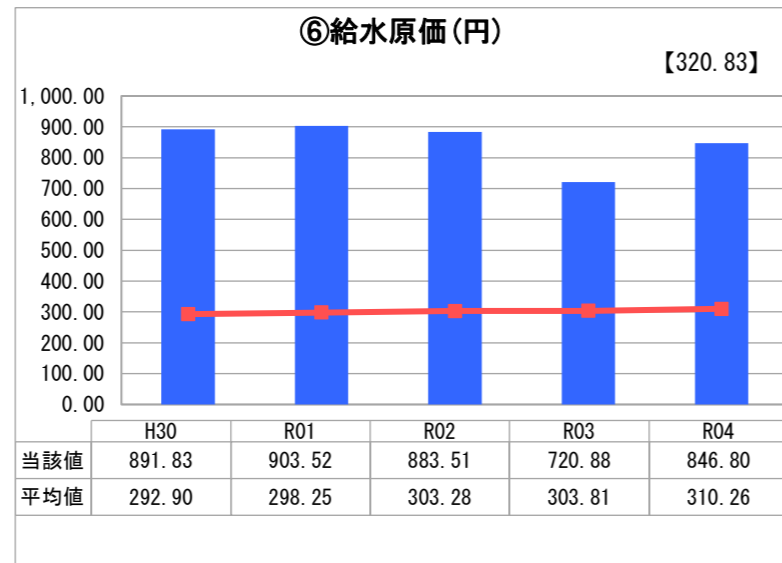
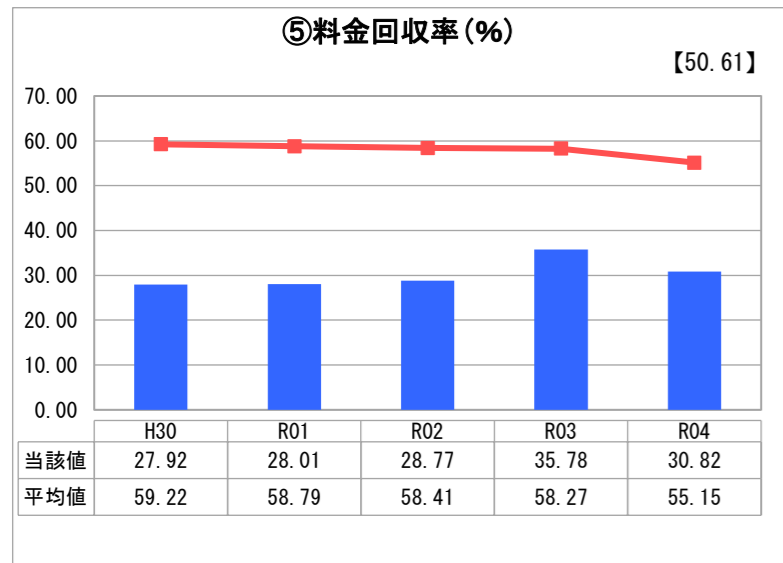
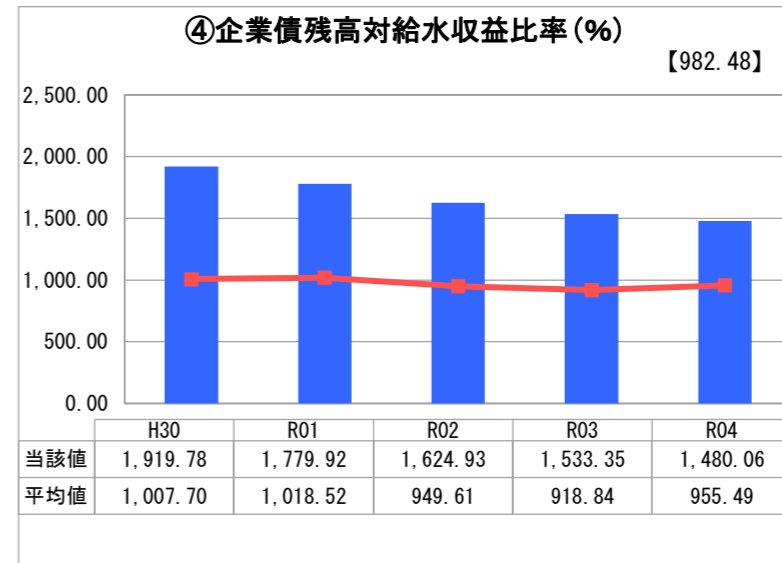
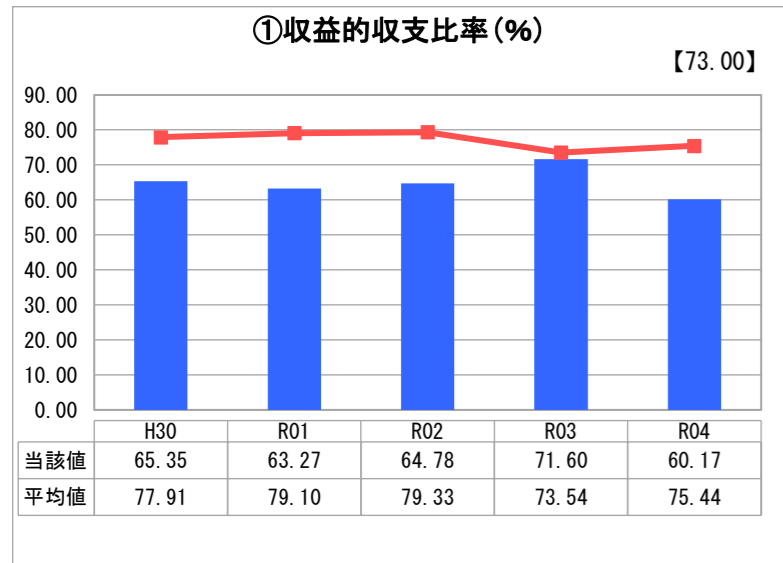
京都府 南山城村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	90.00	4,554	

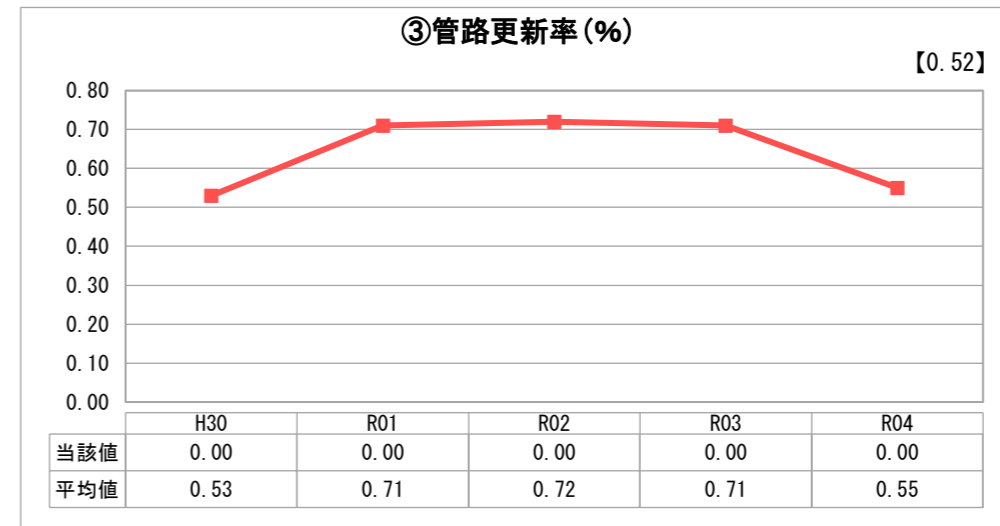
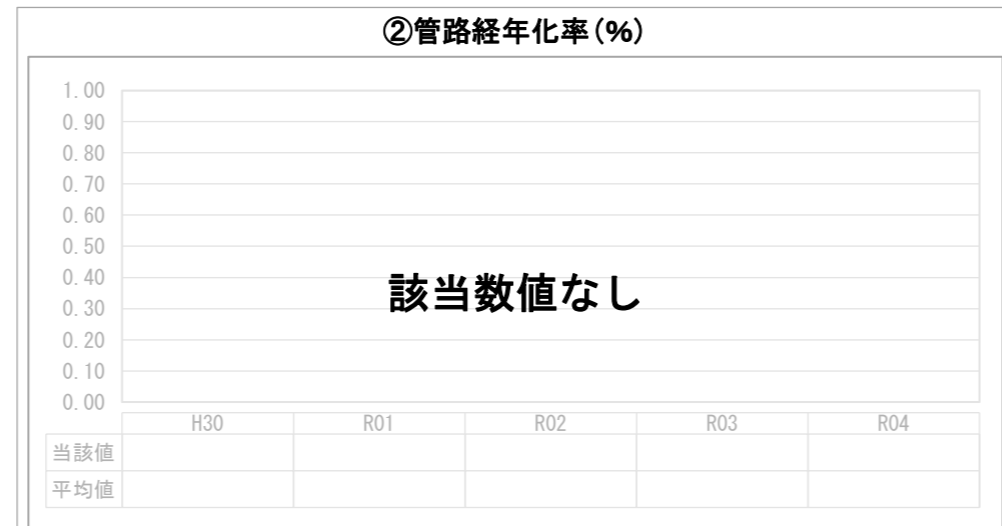
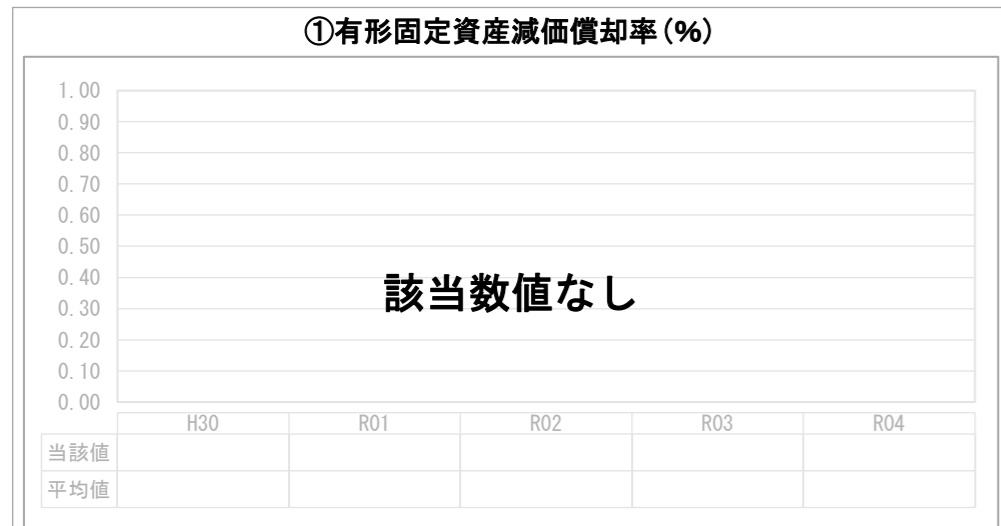
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,505	64.11	39.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,233	6.23	358.43

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は4カ年と比べ%の値が低くなっている。また、類似団体平均と比較しても厳しい状況が続いている。

依然として給水収益以外の収入として一般会計繰入金に依存していることから、今後も引き続き維持管理費の削減などの経営改善の取組が必要である。

④平成17年～平成23年の中央簡易水道統合事業による償還金のピークが過ぎた為、減少している。

⑤給水に係る費用を給水収益で賄えていないので、一般会計からの繰入金で補填している状況であり、経営状態としては厳しい状態である。

⑥給水原価は平均より大きく上回っている。集落が点在しているため、加圧施設等が多くなり設備の維持管理費用が多額になることが要因である。

⑦前年度より低下した要因として、新型コロナウイルスの影響が緩和し自宅を過ごす時間が減り、家庭用の使用量が少なくなったことが考えられる。

⑧漏水発生時点で早期に見出し修繕を行ったため有収率は高い状態であるが、令和3年度以降宅内での漏水が多く有収率は下がっている。

2. 老朽化の状況について

高尾簡易水道は稼働後40年以上が経過しており耐用年数を超える施設が出ている。特に管路ではVP管を使用しており、送水管・配水管ともに漏水が発生している状況である。

令和4年度より、漏水多発箇所の布設替え工事を行っている。

今後給水人口も減っていくなかで、厳しい財源状況ではあるが抜本的な更新計画を検討していく必要がある。

全体総括

本村の人口は年々減少しており、給水収益では事業費を賄えず一般会計からの繰入金で補填している状況である。償還金のピークは迎えているが、未だ企業債残高が多く経営を圧迫している状況が続いている。

近年ではホテル・お茶工場の建設や開業が進んでおり、営業用水量の増加が見込まれている。

今後はより近隣自治体との広域連携を視野に入れ、ハード統合は地理的に困難であってもソフト統合を目標とし、業務の効率化・事業費の削減を目指し経営改善を図る必要がある。